

# 調査速報

## タイ自動車市場月次統計（2017年8月）

内需は年率 80 万台強で停滞感あるが、輸出の大幅増によって、年産 200 万台への回復を判断するステージに

主任研究員

深尾 三四郎

045-225-2375

fukao@yokohama-ri.co.jp

### 要約

- 8月国内生産台数（季調値）は前月比10.6%増の年率216万台。輸出の大幅な反転増加が増産を牽引。
- 中近東向けは低迷続くもアジア・オセアニアを中心に幅広く他地域向けの輸出が増加した模様。
- 輸出の反転増加により2017暦年生産台数が200万台を超える可能性が出てきた。

### 足元の輸出の強さから下期に向けて明るい見通しを示す企業が増える可能性

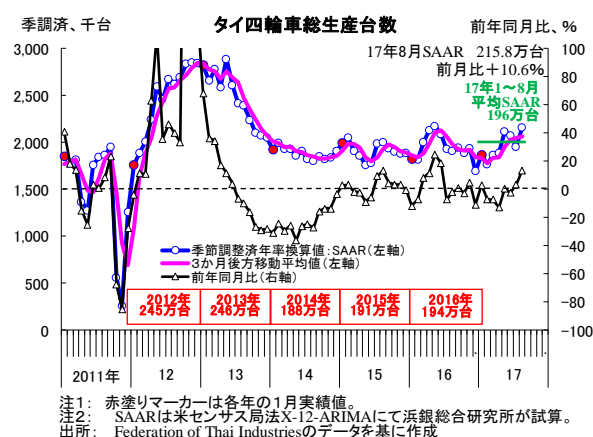
タイ工業連盟（Federation of Thai Industries：以下、FTI）が発表した2017年8月の四輪車総生産台数は、前年同月比 13.5%増と2か月連続で前年超えし、季節調整済年率換算値（当社試算、以下 SAAR）は前月比 10.6%増の 215.8 万台と3か月ぶりの大幅増となった（図表1）。

増産の背景には、輸出台数の大幅な増加がある。8月の総輸出台数は前年同月比 9.3%増と14か月ぶりに前年比プラスとなった。SAAR も前月比 12.8%増の 122.6 万台と3か月ぶりに増加し、水準は10か月ぶりの年率 120 万台超えと、久方ぶりに強いパフォーマンスとなった（図表2）。3か月後方移動平均値でみた基調は5月に反転増加した後、4か月連続で増加している。弊社では仕向け地別の輸出台数データを入手しておらず、詳細の確認はできていないが、現地報道における FTI スポークスマン曰く、中近東及びアフリカ向けの輸出は低迷が続いているのに対し、アジア・オセアニア向けなど他の主要地域への輸出台数が伸長したことに加え、欧州・北中南米への輸出に潜在性を見出しているというコメントをしたようで、仕向け地の広がりが輸出増加をより堅実なものにしている可能性がある。8月の輸出増加が持続性のあるものかどうかを今後精査する必要があるが、ここ1年程低迷した輸出は、漸く上向いてきたという感覚を持っている。

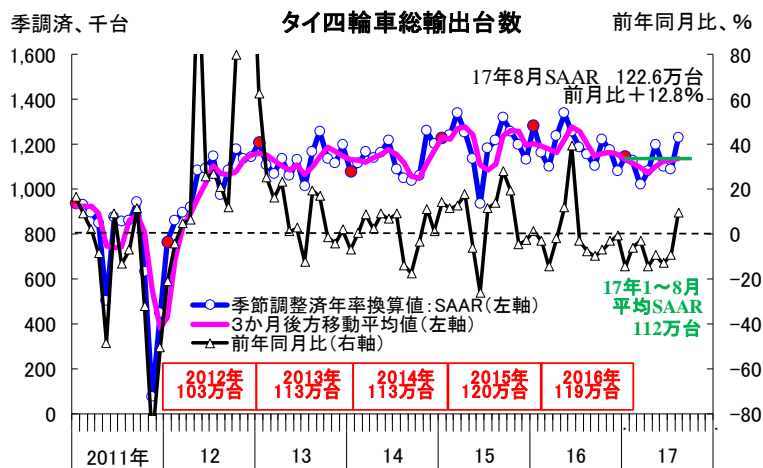
一方、17年前半に一時持ち直しの動きがみられた内需は、このところ重苦しい展開が続いている。8月の国内販売台数は前年同月比 6.8%増と8か月連続の前年超えとなったが、SAAR は前月比 3.2%減の 82.4 万台と減少した。3か月後方移動平均値で見たトレンドは5月からの漸減傾向が続いている（図表3）。相次ぐ新型モデルの市場投入が国内販売を下支えし、年率 80 万台レベルはキープしているものの、消費者信頼感指数が本年5月にピークアウトしたように、消費ムードが盛り上がり欠けていることが内需の重しになっていると推測する（図表4）。

10月後半から日系自動車関連企業は18年3月上旬の決算発表シーズンを迎える。足元の輸出台数の強い動きから、タイビジネスに関しては下期に向けて明るい見通しを示す企業が出てきよう。足元の SAAR 水準を年末まで引き延ばすと、2017 暦年の生産台数は 202 万台、輸出台数は 116 万台、国内販売は 84 万台となる。ちなみに、FTI の予測はそれぞれ 193 万台、110 万台、83 万台となっている。輸出台数が業界想定を上回ること、生産台数が 200 万台レベルに戻ることがタイ自動車市場の回復を判断するひとつの目安となるため、来年に向けてこの回復が継続する見通しかどうか、関連企業からの決算コメントに注目したい。

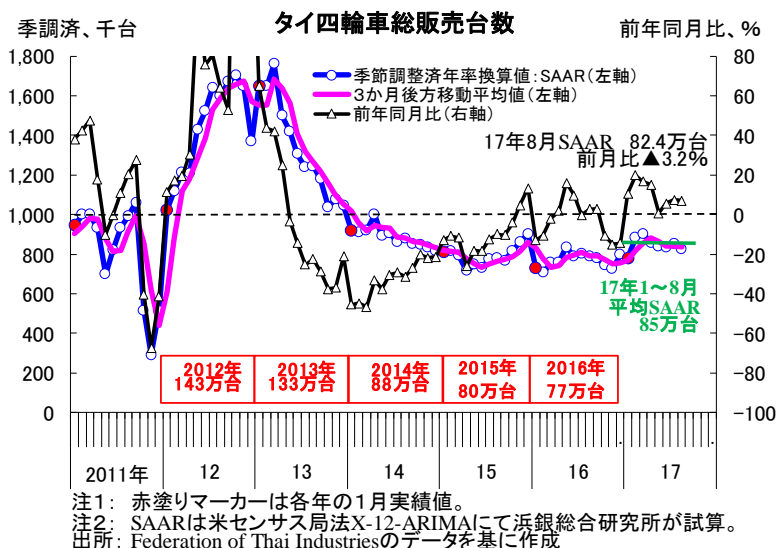
図表1 8月生産台数（SAAR）は大幅増



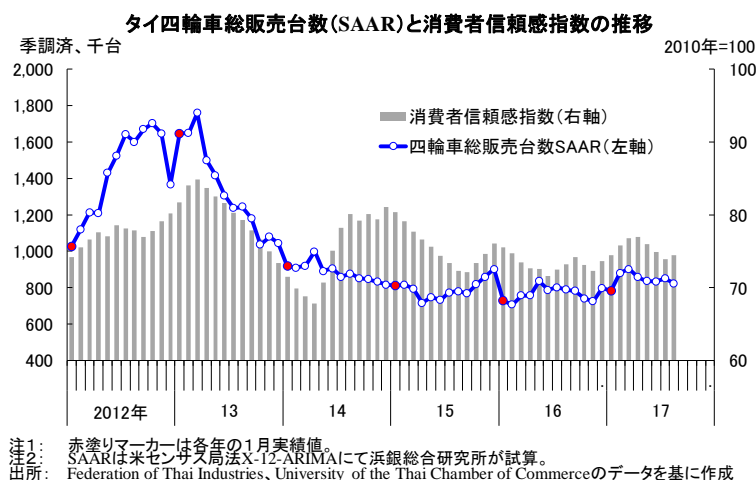
図表2 輸出台数の反転増加が増産のけん引役に



図表3 国内販売（SAAR）は漸減傾向で力強さに欠ける展開



図表4 消費ムードが盛り上がり欠けていることが国内販売の重しに



本レポートの目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。